

取材のお願い

平成25年10月7日

コミュニケーション支援ロボット「TEROOS」で結ぶ福島被災者とハワイの人々 ーホノルル福島県人会設立 90 周年記念式典ー ーハワイと福島の空に「花は咲く」(‘Ganbatte’)の歌声が響くー

概要

日本時間 10 月 28 日(ハワイ時間 10 月 27 日)、ハワイの日系移民メンバーからなるホノルル福島県人会がホノルルにおいて設立 90 周年記念式典を行います。

これに伴い、埼玉大学・慶應義塾大学・北海道大学・東京工科大学は、ホノルルと福島を繋ぐロボットを使った遠隔コミュニケーション支援を行います。なお、福島側の会場は、ホノルルで海洋実習中の生徒が式典にも参加する、いわき海星高等学校となる予定です。

1 支援が始まった背景

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災が起こったとき、ホノルル福島県人会、Aloha Initiative(アロハイニシャティブ)が窓口になり多大な支援が寄せられました。

ホノルル福島県人会は福島県出身のハワイの日系移民による団体で、長年ふるさとである福島とハワイとの交流を行っており、精力的な支援活動の結果、総計 8 万 2 千ドルの寄付金を送りました。

また、Aloha Initiative(アロハイニシャティブ)は、福島の避難区域から乳幼児を含む 63 人が 2011 年 7 月 4 日から最長 2 ヶ月半、さらに高校生を含む 30 人が 7 月 28 日から 1 ヶ月、マウイ島のホストファミリーの家に招待され、暖かく歓迎されました。

2012 年 9 月、ホームステイをした子供たちの顔がまた見たいというアロハイニシャティブの皆さんの声に応え、本学教養学部山崎敬一研究室、東京工科大学山崎晶子准教授、関西大学池田佳子准教授は、国際電気通信基礎技術研究所(ATR)と慶應義塾大学の今井倫太准教授のグループが開発した人間の肩に取り付けられる「TEROOS」というロボットを用いて、遠隔地とのコミュニケーション支援を行いました。アロハイニシャティブに招かれた子供とホストファミリーが、太平洋を隔ててバーチャルに再会しました。久しぶりの再会にみなさんが大変感動されました。



2 設立 90 周年記念式典

10 月 27 日、募金活動の中心となったホノルル福島県人会が福島県知事や議長を招待してホノルルで 90 周年記念式典を行います。これに伴い、今回も「TEROOS」を用いた同様の交流支援を行います。

式典では、ハワイに実習船が立ち寄るために交流があったいわき海星高校がジャンガラ踊りを披露します。ホノルル福島県人会は被災したいわき海星高校の校舎の建て替えのために、10,241 ドルの寄付をハワイ日系人連合協会とともに送りました。来年は世界各地の福島県人会の方とともに福島県を訪問する予定です。また、90 周年記念式典では、福島に「Ganbatte」という気持ちを込め、NHK の復興応援チャリティーソングである「花は咲く」を合唱する予定です。

問い合わせ先
東京工科大学メディア学部 山崎 晶子
TEL 042-637-2619

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 2 5 5 埼玉大学

本件発信元：総務部総務課広報担当（岡田・伊藤）

TEL :048-858-3932・3927 FAX:048-858-9057 e-mail:koho@gr.saitama-u.ac.jp